

A-78 地域別にみる青年男女の食品の嗜好性

香川県立香川大 ○川梁節江 田中照子 食品総合研究所 石間紀男

目的 食生活の多様化にともなう、食品の種類は豊富になり、しかも入手しやすい状態にある。一方では集団給食が發展しつつあり、食品の嗜好性を知る必要性が増大している。そこで今回は、青年期男女について全国8地域(10カ所)において調査を行った。結果を報告する。

方法 食品の嗜好意欲尺度(9点法)により、アンケート形式で実施した。食品は調味料、ごはんもの、めん類、パン類、鍋もの、煮物料理、肉料理、卵料理、豆おろし、豆製品、汁物、野菜類、サラダ類、つけもの、きのこ類、海そう類、乳製品、飲みもの、菓子類、果物の内の食品群にわけ260種を提示した。調査地は、札幌、仙台、金沢、東京、大阪、広島と山口、熊本と福岡、高松の10カ所で849名に付き昭和45年6月に実施した。

結果

(1) 食品の嗜好尺度4点(1から5点)は「これは食べてみる」と食品に対する積極的意志表示の境界とみなし、その点数以下にどのくらいの人が反応しなかったかを計算し食品の嗜好性をあらわした。

(2) 各食品の平均点によって平均嗜好度とし、標準偏差によって人による食品の好ましさの程度をあらわした。

(3) 地域による喫食経験の少ない食品についても明らかにした。